

エピソード70

お母さんが声を荒げ電話をかけてきます



このエピソードでは、教職
経験16年目の40歳代男性
の先生の経験を紹介します。

なみちゃん

小学校教師として25年以上の経験
があります。



この先生は、教務主任です。初任の先生が担任をしている1年生の学級のお母さんを気にかけ、かかわっているそうです。

お母さんは、度々、学校に電話をかけてきます。内容は、我が子が学校や公園で遊ぶとき、友達とけんかになったことをお母さんに伝え、そのことをお母さんが声を荒げて学校に訴えるというものです。

「健診とかに行っても、（医師や保健師に）呼び止められる」と不満を口にします。また、学校に電話を入れるとき名乗らず、入学説明会ではずっと携帯電話を触り、その姿は他の人とのコミュニケーションを閉ざしているように見えました。



子育てについては、何か情報はありましたか。

子どもに対して、「かわいいと思えない」と母子関係に葛藤や困り感をもっているように感じます。

子どもは、学習の定着に課題があり、集中が途切れがちで、友達との関係では、頻繁に「～された」と担任に大きな声で訴える姿があります。

担任は、子どもが落ち着いて学習に取り組む、友人関係を築けるように、当初から支援しています。

担任は早口で声を荒げるお母さんから何度か電話を受け、「（お母さんが）ちょっと苦手です…」と涙目で私に話しました。そのため、担任が子どもたちの対応に集中できるように、お母さんの対応や連絡を私が担当することになりました。



先生が、お母さんとお話をしますということを、お母さんへどのように伝えたんですか。

お母さんから電話があった時に、担任が外していたので、私は自己紹介をして、お話を聞かせてもらいました。お母さんは、子どもが友人関係の不満を言っている、そして子どもが言うことを聞かない、勉強ができない、朝学校に行きたがらない等、話題を次々に変えて、30分程度、声高に話し続けました。



先生は、お母さんのことをどのように理解されましたか？

私は担任でないので、比較的、余裕をもってお母さんのお話をお聞きすることができました。激しい語気で話すお母さんのことばとは裏腹に、お母さんが背負っている子育ての不安や孤独を感じ取っていました。



先生は、お母さんに何かお話をしたんですか。

はい、お母さんの声がトーンダウンしたあたりで、「子どもの思いを聞いて、学校に送り出してくれてありがとうございます」「お子さんがお母さんの言うことを聞けないときは、学校に連絡をください。こちらでじっくり話を聞いて伝えることができます」など、お母さんの望ましい対応についての感謝と対応を穏やかな声で伝えることを意識しました。



先生は、お母さんとお話をするとき、どのようなことを大切にしていたのでしょうか？

そうですね、学校は子育てや子どもの成長を家庭と一緒に手を取り合って進めていくサポーターであると、お母さんに感じ取って欲しいと考えました。つまり、学校と家庭は横に並んで共に進むイメージで、お母さんに対応しました。そして、お母さんの努力に感謝し、困っていることへの対応法の提案など、共に進んでいくことを大切にしました。特にこのお母さんの場合は、理屈や理論を伝えるのではなく、担任の先生以外の教師が対応し、お母さんの困っている感情を丁寧に扱うことで、学校が信頼関係を築けると考えました。



お母さんのその後の様子は、いかがでしょう
うか。

お母さんの感情を丁寧に扱うことを繰り返していくことで、お母さんが困っていることを自ら話してくれたり、相談してくれるようになっていきました。最近は、「この前は担任の先生に怒って話してしまったので謝っておいってください」など、お母さんが譲ってくれたり、担任とも笑い声を交えてコミュニケーションをとれるようになってきています。



そうですか、お母さんと担任の先生の関係が変化しているんですね。



なみちゃんの一言

- 保護者から早口で声高に負の感情が伝わることを言われると、じっくりと話の内容に耳を傾けるのはとても大変なことだと思います。
- 保護者が教師に示す負の感情に丁寧に対応することを繰り返していくことで、信頼関係を築ける場合がありますね。

お・し・ま・い



なみちゃん

ナレーション 浪岡美保
(北海道教育大学大学院 修了生)

イラスト 尾上樹里
(北海道教育大学 大学院生)